

常設展示

中世 (平安末～室町時代)
 中世越前窯は12世紀後半に、東海諸窯からの技術導入によって成立
 当時は北陸地方における最大の窯業地で、無数の越前陶を焼成

製品の種類
 壺、甕、すり鉢 (片口鉢) の三種を基本に、他にさまざまな陶器を焼成
 僅かに特殊品の生産を行う。

特徴
 当初は地元のみ流通だったが、次第に近畿・関東へ流通する。
 16世紀頃には競合関係にあった越前・美濃・瀬戸は島根県まで広く流通する。

大型製品
 越前焼あれこれ
 藍染めに用いる
 用いる
 にも使われ、
 に使ってしまし

刻文
 越前焼あれこれ
 刻文には
 刻文には
 や豊稷の新
 なものが存在
 鎌倉時代中葉
 鳥か刻まれた陶
 は、樹木や草か刻ま
 は、豊稷の折りが込めら

常滑 (この頃)
 越前焼あれこれ
 常滑は越前県美加野町にあり、12世紀後半に成立した。越前焼の生産地として知られている。
 12世紀後半に越前焼の生産地として知られている。越前焼の生産地として知られている。
 12世紀後半に越前焼の生産地として知られている。越前焼の生産地として知られている。
 12世紀後半に越前焼の生産地として知られている。越前焼の生産地として知られている。

越前焼・やきもの
 についての
 あれこれが盛りだくさん!



現代のやきもの
 「職人」と「作家」
 「製品」と「作品」
 現代のやきものは、職人と作家の両面から発展している。

特殊品の生産
 (珍しい製品)
 中世の越前窯では、壺・甕・すり鉢 (片口鉢) の三種を基本として、他にさまざまな陶器を生産していた。
 水注や水瓶、経筒外容器、瓶子などその他に、大量生産品ではないやきものか確認されている。
 また、越前を特徴付けるやきものとして片口小壺い
 わゆるお歯黒壺が知られている。

色とりどりの越前焼
 土の色や印象が強い越前焼は、近世・近代になると、多様な色彩の製品も作られるようになった。
 あなたの好みも越前焼は